

2021 年度 自己評価 結果及び対策・改善報告書

評価項目	評価結果 及び 対策	改善結果（進捗状況）
I、環境・体制整備について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルスの感染対策として昨年度に引き続きマスクの着用、手指消毒、活動前後の消毒、3 密の回避等行ってきた。また、館内へのウイルスの持ち込みを極力減らす目的として、県や市の感染レベルに合わせてその都度行事や見学の実施について対応してきた。その他、感染症発生時の BCP の作成や発生想定訓練も実施した。 ・ 職員体制については、今年度も基準以上の配置をしている。また、数名のボランティアさんの協力もいただくことができ、子ども達、職員にとって大きな力となっている。 ・ コロナ禍の中で感染対策の一環として施設内の清掃・消毒により一層意識高く取り組んできた。その中で毎日の清掃で手が届いていない場所にも目を向けるよう、職員間での話し合いなどを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染状況に合わせた施設の対応はその都度お便りやメールにて情報発信させていただいた。対策をとる中で生じる保護者の不安やご意見にこたえられるよう、送迎時のコミュニケーションや連絡ノートの活用等、積極的に行ってきた。 ・ ボランティアさんへの感染対策も職員同様にご協力いただき、安心、安全に参加していただけるよう配慮している。今後もまたボランティアさんの参加を募っていきたい。 ・ 一人一人が日々行う“ちょこっと清掃”を提案し、環境整備の意識を上げて全体での取り組みにつなげていけるよう準備している。
II、業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度に引き続き、職員全員参加の療育勉強会を年 4 回実施した。療育での悩みや疑問、互いの価値観などを共有し、普段話すことの少ない職員同士の良いコミュニケーションの機会となった。また、学んだことを実践し、その報告から振り返りをするという形式で行ったことでより実践的な研修となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も職員の資質向上、自己研鑽の場として活用していきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、業務分掌をマニュアルに沿って計画的に進めていけるよう取り組んできた。しかし、分掌の項目も多く、また業務が多岐に渡るため計画通りの実施が難しいところもあった。他部署との共通業務については、特に報連相の停滞が課題となっているため、次年度に向けての課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末にはマニュアルの見直しを行うことと、部署間の共有が必要な分掌については定例会議を設けるなどの改善を図っていく。
<p>Ⅲ、適切な支援の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も引き続き客観的なスケールを使用し、子どもの発達段階を評価、クラス編成を行っている。半期で実施した評価を基に数名の児がクラスを異動した。その際は、保護者への説明と提案の後、保護者の意向が合致すれば異動をおこなった。 療育活動については、年間目標を基に年間3期に分けて目標を設定し、更に月毎の目標に落とし込み計画を立てている。今年度は、子ども達一人一人の支援目標もクラス全体の目標とリンクさせながら、活動計画(月案・日案)を立てることに注力してきた。日々の振り返りについては、十分な時間が取り辛く、課題として残る。 	<ul style="list-style-type: none"> 半期に一度、発達スケールの確認を行うとともに、保護者への説明を丁寧に行い、安心して通えるようなクラス編成に努めている。また今後も発達に合わせた療育が実施していけるよう取り組んでいきたい。 根拠を持った活動や関わりができるよう、職員の資質向上に取り組むとともに、保育所等訪問支援職員や特別支援職員等、多角的な意見も取り入れていきたい。また、振り返りの時間を安定的にとることができるよう、業務の効率化を図っていきたい。
<p>Ⅳ、関係機関や保護者との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就園前、療育の頻度変更時、就学先の検討等、ケースの状況に応じて園や学校、関係機関と積極的に連携(サービス担当者会議)を行ってきた。相談支援事業所、クラス担当者、保育所等訪問支援担当者、児発管等、その児に係る職員ができるだけ多く参加する形をとっている。そのことが保護者の安心や信頼関係の構築にもつながっている。 今年度は感染状況を踏まえ、ほとんどの保護者会をオンラインで行うこととなった。参加のしやすさについては好評の声を多くいただいたが、内容につ 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き関係機関との連携を図っていきたい。 今後も感染状況に応じて、オンライン開催などを活用し、必要な情報や保護者同士のつながりが得られ

	<p>いてはワンパターンにならないよう、工夫が必要であると感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、連携を必要とする“関係機関”について、職員間で勉強会を行ってきた（主に福祉サービスについて）。 今年度コロナ禍の中、近隣園との交流保育は実施できなかった。次年度は災害時の訓練に共に参加する計画を立て、形にとらわれない“交流”を模索していきたい。 	<p>るよう方法を検討していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後は、学んだ関係機関との連携もケースに合わせて柔軟に行っていきたい。 次年度は災害時の訓練に共に参加する計画を立て、保育という形にとらわれない交流も模索していきたい。
<p>V、保護者への説明責任等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保護者とクラス担任の個別面談(キラキラタイム)を全員が公平に実施できるよう計画的に案内した。一部の保護者より回数が減ってしまったことについてご意見をいただいたが、普段のコミュニケーション(連絡ノートでのやり取り、送迎時の様子の報告、お便りの発行等)を充実させることや、グループキラキラでの横のつながりの場の提供、保護者の求めに応じて相談への対応は可能であることを周知するなどし、答えてきている。 ペアレントプログラムについて、今年度は待機児の保護者を対象に、オンライン形式で行った。マニュアルもなく、新たな取り組みであったものの、6組の保護者が最後までしっかりと参加してください、中には夫婦で参加するなど父親の参加のしやすさ等も意見をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の方には今後も一定のご理解とご協力をいただくことになることを念頭に、職員も話しかけやすい雰囲気や保護者との関係構築を大事にし、声を拾った際には真摯に対応していきたい。 コロナの感染状況によって開催方法が変わってしまうが、オンラインという、新しいツールをうまく利用しながら次年度も実施していきたい。
<p>VI、非常時等の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練、避難確保訓練、不審者訓練等の定例の訓練はしっかりと計画的に行うことができた。また今年度は感染発生時のBCPの訓練なども行い、有事の備えに取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、様々な状況下での訓練を行っていきたい。 また、感染症の訓練については、必要時専門家にご意見をいただけるようにしていきたい。

(まとめ)

かるみあは、“多職種の専門職”がチームとして協働し、アセスメントから活動プログラムの立案・実施・振り返りを行い、丁寧な療育が出来るよう努めています。「お子さん自身の健やかな発達とそこにある保護者様の想い」を中心に、対話を大切に日々関わらせて頂きます。又、関係機関との連携を通して、お子さまや保護者と共に、就園・就学、地域への参加等積極的にサポートしていきます。

今年度も新型コロナウイルスの感染対策を考慮しながら、子どもたちの活動や行事等を実施してきました。対策上、支援の内容や子どもたちの様子が見えにくくなってしまうがちであることを十分理解し、保護者様とのコミュニケーションや施設の情報発信を今後も積極的に行っていきたいと思えます。コロナ禍の状況は次年度も同様であることを見据えつつ、その中でも可能な限りの質の高い支援を実践していけるよう、工夫をしていきたいと思えます。

また、児童発達支援センターとして、役割を再確認するとともに専門性の高い職員育成にも取り組んでまいりたいと思えます。